

# ベクトル解析

## 2回目講義

畠中 英里

# 本日の講義の流れ

- 前回の復習
- 本日の講義内容
  - ・ 外積の基本的な性質
  - ・ 外積の幾何学的意味
  - ・ スカラー三重積
  - ・ ベクトル三重積

# 前回の復習 (1)

ベクトルとは：向きと大きさを持つ量。太字 ( $\mathbf{A}$ ) で表す。

スカラーとは：大きさ (数値) だけを持つ量。

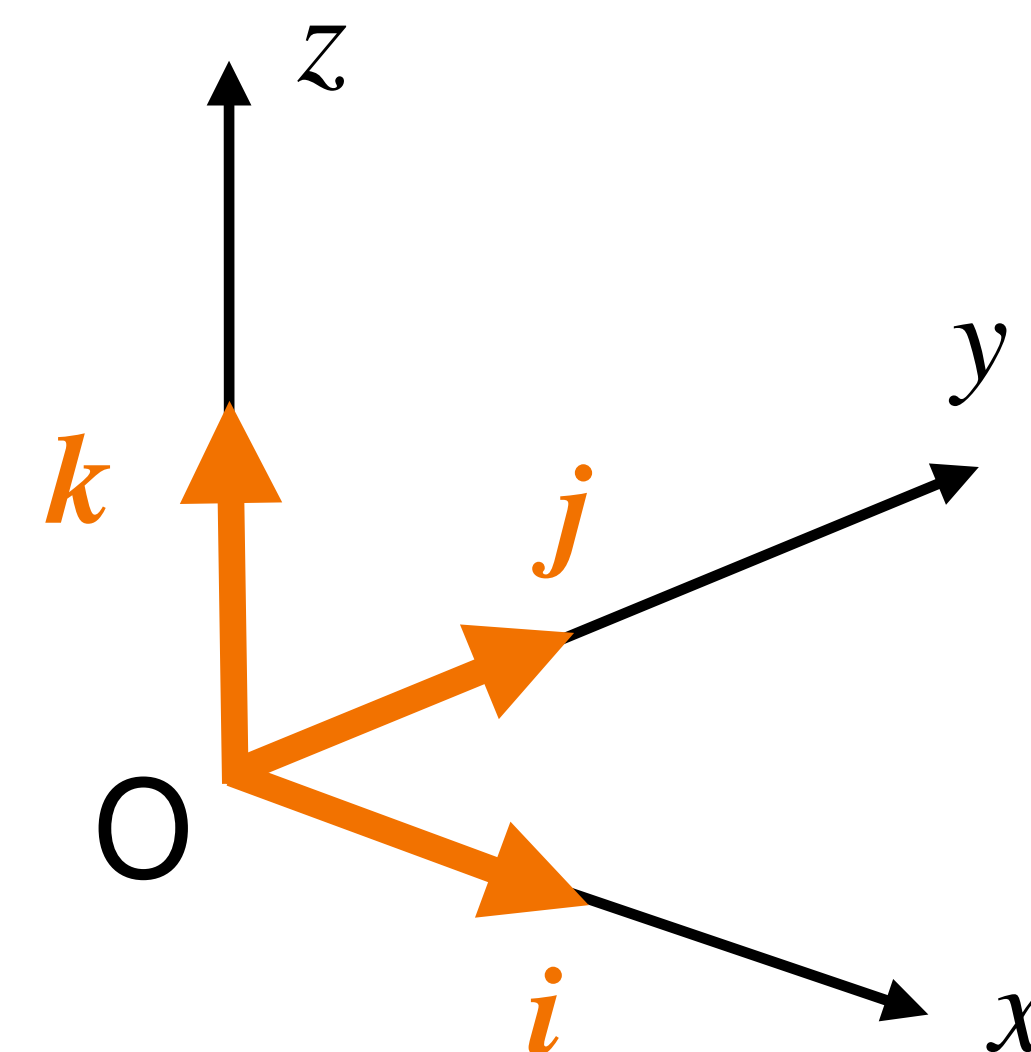
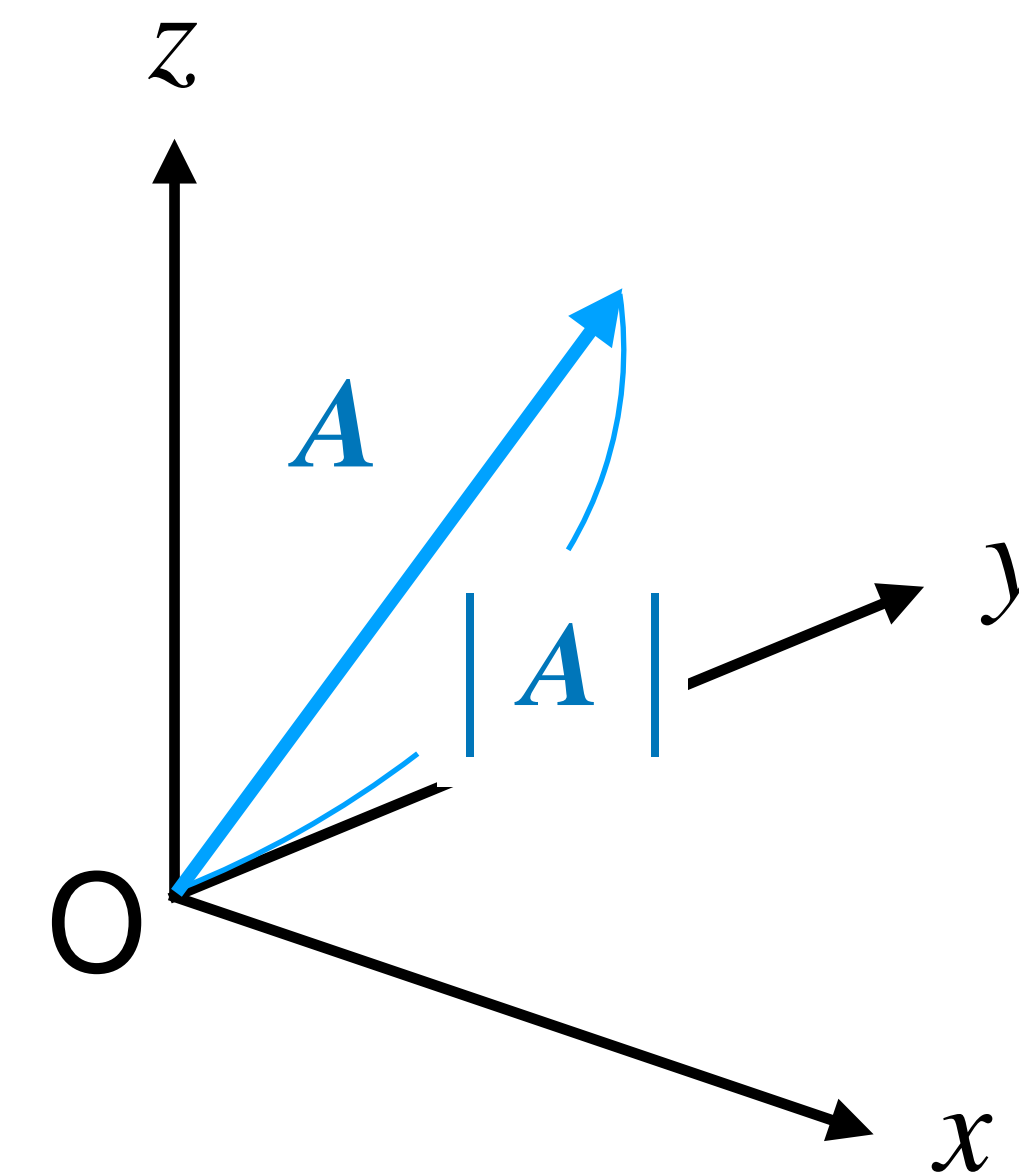
ベクトル  $\mathbf{A}$  の成分表示： $\mathbf{A} = (A_x, A_y, A_z)$

ベクトルの大きさ： $|\mathbf{A}| = \sqrt{A_x^2 + A_y^2 + A_z^2}$

単位ベクトル および 基本ベクトル  $\mathbf{i}, \mathbf{j}, \mathbf{k}$  の定義

ベクトルの加法： $\mathbf{A} + \mathbf{B} = (A_x + B_x, A_y + B_y, A_z + B_z)$

ベクトルのスカラー倍： $a\mathbf{A} = (aA_x, aA_y, aA_z)$  である。



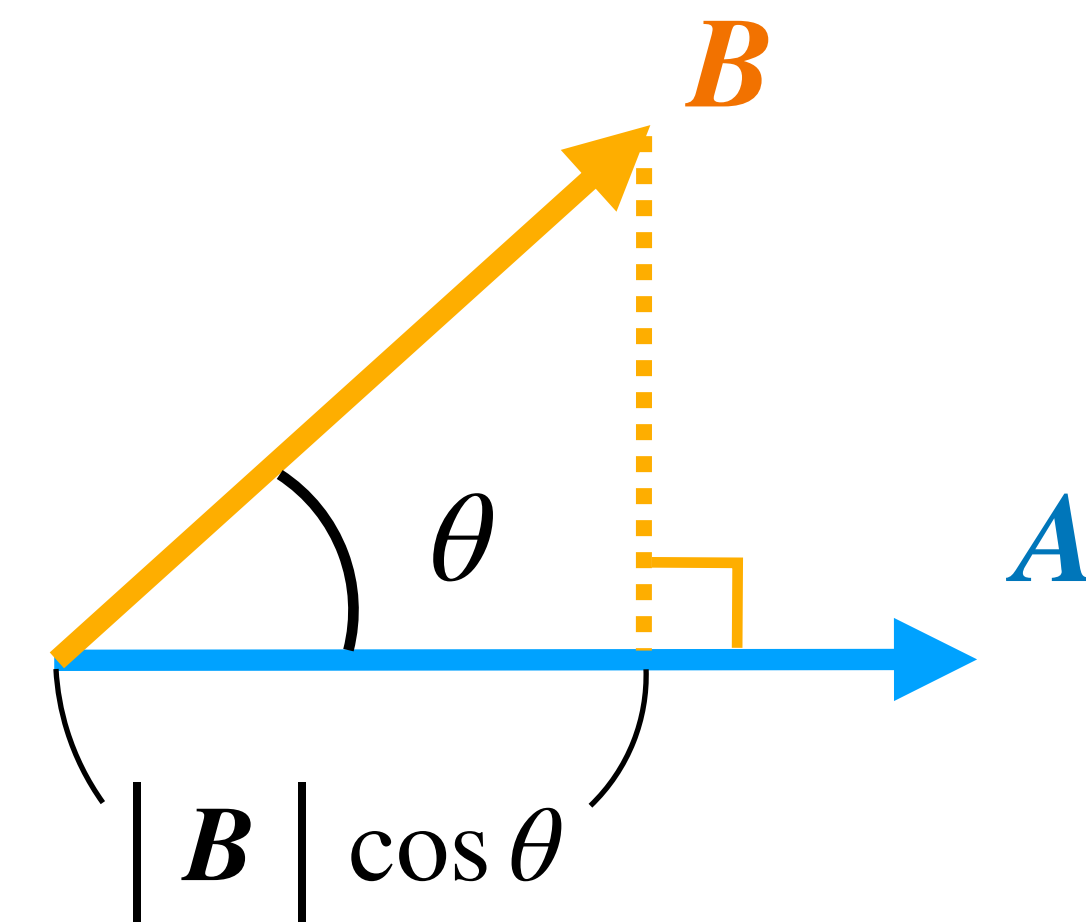
# 前回の復習 (2)

ベクトル  $A$  と  $B$  のなす角を  $\theta$  とする ( $0 \leq \theta \leq \pi$ )。

$A$  と  $B$  の **内積** :  $A \cdot B = |A| |B| \cos \theta$  ( $A \neq \mathbf{0}, B \neq \mathbf{0}$  のとき)

$A, B$  のいずれかが  $\mathbf{0}$  であるときは  $A \cdot B = 0$  と定める。

$|B| \cos \theta$  を  **$B$  の  $A$  方向への符号付き正射影成分** という。



$A = A_x i + A_y j + A_z k$ ,  $B = B_x i + B_y j + B_z k$  とすると

$$A \cdot B = A_x B_x + A_y B_y + A_z B_z$$

$$\cos \theta = \frac{A \cdot B}{|A| |B|} = \frac{A_x B_x + A_y B_y + A_z B_z}{\sqrt{A_x^2 + A_y^2 + A_z^2} \sqrt{B_x^2 + B_y^2 + B_z^2}}$$

# 前回の復習 (3)

$\mathbf{A} = A_x \mathbf{i} + A_y \mathbf{j} + A_z \mathbf{k}$ ,  $\mathbf{B} = B_x \mathbf{i} + B_y \mathbf{j} + B_z \mathbf{k}$  に対し、

$\mathbf{A}$  と  $\mathbf{B}$  の **外積** とは

$$\mathbf{A} \times \mathbf{B} = (A_y B_z - A_z B_y) \mathbf{i} - (A_x B_z - A_z B_x) \mathbf{j} + (A_x B_y - A_y B_x) \mathbf{k}$$

$$= \begin{vmatrix} A_y & A_z \\ B_y & B_z \end{vmatrix} \mathbf{i} - \begin{vmatrix} A_x & A_z \\ B_x & B_z \end{vmatrix} \mathbf{j} + \begin{vmatrix} A_x & A_y \\ B_x & B_y \end{vmatrix} \mathbf{k}$$

$$= \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix} \quad (\text{行列式の第1行に関する余因子展開})$$

本日の講義

外積の性質

# 外積の性質

すべてのベクトル  $A, B, C$  とスカラー  $c$  についてつぎが成り立つのであった。

$$(1) \quad A \times B = -B \times A$$

$$(2) \quad A \times A = \mathbf{0}$$

$$(3) \quad (A + B) \times C = A \times C + B \times C, \quad C \times (A + B) = C \times A + C \times B$$

$$(4) \quad (cA) \times B = c(A \times B), \quad A \times (cB) = c(A \times B)$$

行列式の性質を使ってこれを証明しよう。

行列式の性質を復習する。

# 行列式の性質 (1)

$n$  次正方行列  $A$  の行列式  $|A|$  について、 $|{}^t A| = |A|$  が成り立つことより、行（列）に関して成り立つ性質はすべて列（行）に関して成り立つ。

また、 $n$  次正方行列  $A$  を列ベクトルを用いて  $A = (a_1 a_2 \cdots a_n)$  と表すとき、行列式  $|A|$  についても  $|A| = |a_1 a_2 \cdots a_n|$  と表すことにする。

定理 2つの列（または行）を入れかえると、行列式は  $(-1)$  倍になる。

$$\begin{array}{ccccccc} | & a_1 & \cdots & a_i & \cdots & a_j & \cdots & a_n & | & = & - & | & a_1 & \cdots & a_j & \cdots & a_i & \cdots & a_n & | \\ & & & i & & j & & & & & & & i & & j & & & & & & & \\ & & & \text{列} & & \text{列} & & & & & & & \text{列} & & \text{列} & & & & & & & \end{array}$$



# 行列式の性質 (3)

定理 ある行列の1つの列ベクトル  $a_i$  が2つの列ベクトルの和として

$$a_i = a_i' + a_i''$$

と表されるとき、つぎが成り立つ。(行についても同じ性質が成り立つ。)

$$\begin{aligned} \left| \begin{array}{cccc} a_1 & \cdots & a_i & \cdots & a_n \\ & & i & & \\ & & \text{列} & & \end{array} \right| &= \left| \begin{array}{cccc} a_1 & \cdots & a_i' + a_i'' & \cdots & a_n \\ & & i & & \\ & & \text{列} & & \end{array} \right| \\ &= \left| \begin{array}{cccc} a_1 & \cdots & a_i' & \cdots & a_n \\ & & i & & \\ & & \text{列} & & \end{array} \right| + \left| \begin{array}{cccc} a_1 & \cdots & a_i'' & \cdots & a_n \\ & & i & & \\ & & \text{列} & & \end{array} \right| \end{aligned}$$

# 外積の性質 (1) の証明

外積を行列式を使って表せることから、外積の性質 (1) ~ (4) が示される。

$A = A_x i + A_y j + A_z k$ ,  $B = B_x i + B_y j + B_z k$  に対し、

$$A \times B = \begin{vmatrix} i & j & k \\ A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix}$$

(1)  $A \times B = -B \times A$  の証明

$$A \times B = \begin{vmatrix} i & j & k \\ A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} i & j & k \\ B_x & B_y & B_z \\ A_x & A_y & A_z \end{vmatrix} = -B \times A \quad \blacksquare$$

# 外積の性質 (2) と (4) の証明

(2)  $\mathbf{A} \times \mathbf{A} = \mathbf{0}$  の証明

$$\mathbf{A} \times \mathbf{A} = \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ A_x & A_y & A_z \\ A_x & A_y & A_z \end{vmatrix} = \mathbf{0} \blacksquare$$

(4)  $(c\mathbf{A}) \times \mathbf{B} = c(\mathbf{A} \times \mathbf{B})$  の証明

$$(c\mathbf{A}) \times \mathbf{B} = \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ cA_x & cA_y & cA_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix} = c \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix} = c(\mathbf{A} \times \mathbf{B})$$

$\mathbf{A} \times (c\mathbf{B}) = c(\mathbf{A} \times \mathbf{B})$  についても同様。  $\blacksquare$

# 外積の性質 (3) の証明

(3)  $(A + B) \times C = A \times C + B \times C$  の証明

$C = C_x i + C_y j + C_z k$  とする。

$$\begin{aligned}
 (A + B) \times C &= \begin{vmatrix} i & j & k \\ A_x + B_x & A_y + B_y & A_z + B_z \\ C_x & C_y & C_z \end{vmatrix} \\
 &= \begin{vmatrix} i & j & k \\ A_x & A_y & A_z \\ C_x & C_y & C_z \end{vmatrix} + \begin{vmatrix} i & j & k \\ B_x & B_y & B_z \\ C_x & C_y & C_z \end{vmatrix} = A \times C + B \times C
 \end{aligned}$$

$C \times (A + B) = C \times A + C \times B$  についても同様。 ■

# 外積の幾何学的意味を考察する

ベクトル  $A$  と  $B$  の外積  $A \times B$  は、 $A$  と  $B$  の成分によって定義された。

$A = A_x \mathbf{i} + A_y \mathbf{j} + A_z \mathbf{k}$  ,  $B = B_x \mathbf{i} + B_y \mathbf{j} + B_z \mathbf{k}$  とするとき、

$$A \times B = \left( A_y B_z - A_z B_y \right) \mathbf{i} - \left( A_x B_z - A_z B_x \right) \mathbf{j} + \left( A_x B_y - A_y B_x \right) \mathbf{k}$$

$$= \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix}$$

$A \times B$  が、どのような「向き」と「大きさ」を持つベクトルなのかを見よう。

# 外積と垂直なベクトル

まずは、つぎの等式が成り立つ。

$$(A \times B) \cdot A = 0, \quad (A \times B) \cdot B = 0$$

(証明)  $A = A_x i + A_y j + A_z k$ ,  $B = B_x i + B_y j + B_z k$  とするとき、

$$\begin{aligned} (A \times B) \cdot A &= \left\{ (A_y B_z - A_z B_y) i - (A_x B_z - A_z B_x) j + (A_x B_y - A_y B_x) k \right\} \cdot (A_x i + A_y j + A_z k) \\ &= (A_y B_z - A_z B_y) A_x - (A_x B_z - A_z B_x) A_y + (A_x B_y - A_y B_x) A_z \\ &= 0 \quad (\text{展開してたしかめよ}) \quad (A \times B) \cdot B = 0 \text{ についても同様。} \blacksquare \end{aligned}$$

ベクトル  $A$  と  $B$  の外積  $A \times B$  は、 $A$  と  $B$  の両方に垂直なベクトルである。

# 基本ベクトルの外積

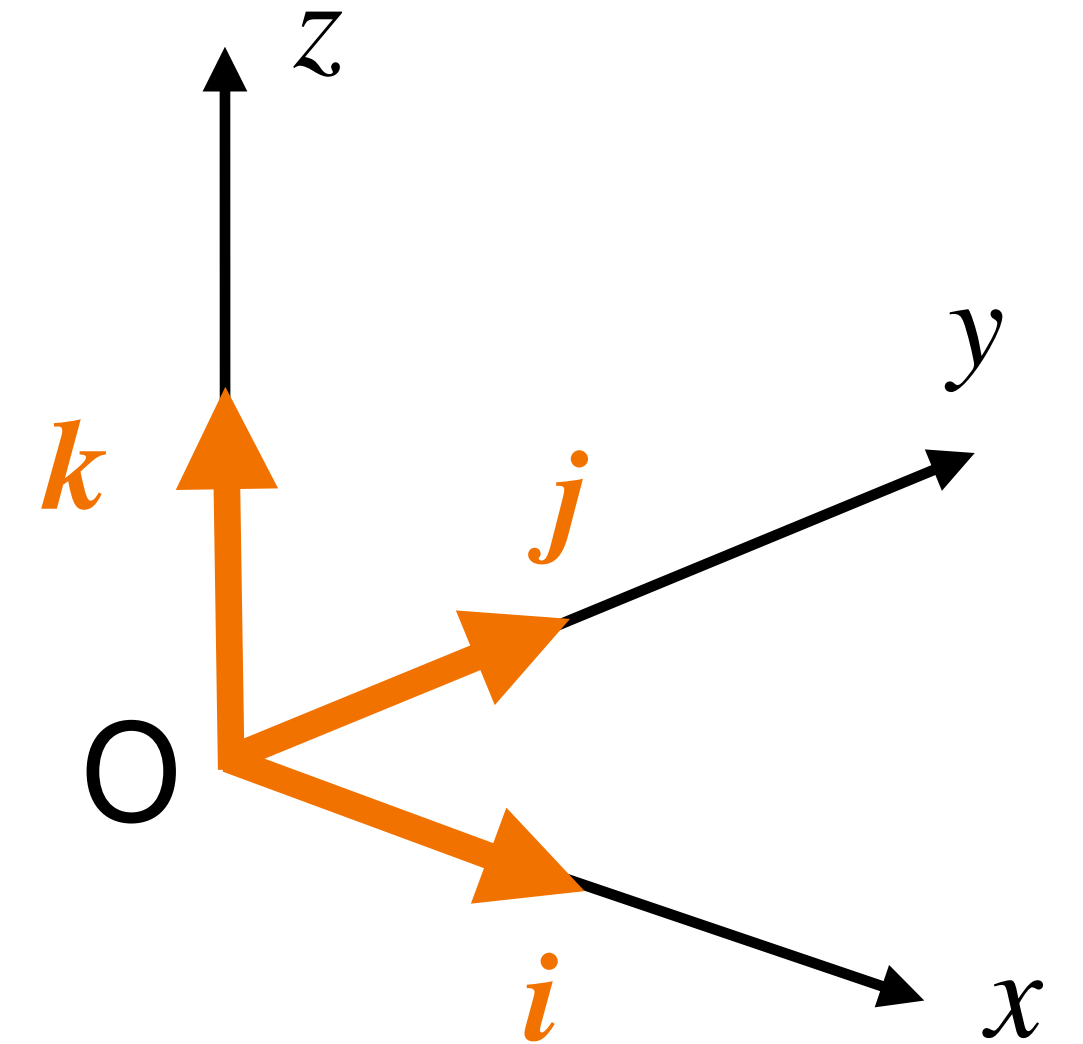
$x$  軸、 $y$  軸、 $z$  軸は **右手系** をなすように配置されているとする。

基本ベクトル  $i, j, k$  はそれぞれつぎのベクトルであった。

$$i = (1, 0, 0) , j = (0, 1, 0) , k = (0, 0, 1)$$

このとき、つぎが成り立つ。(たしかめよ。)

$$i \times j = k , j \times k = i , k \times i = j$$



$i$  を  $j$  に重ねるように  $90^\circ$  回転すると、 $i \times j$  は右ねじの進む向き ( $k$ ) を向く。

**基本ベクトルの外積の向きは右手系に従う。**

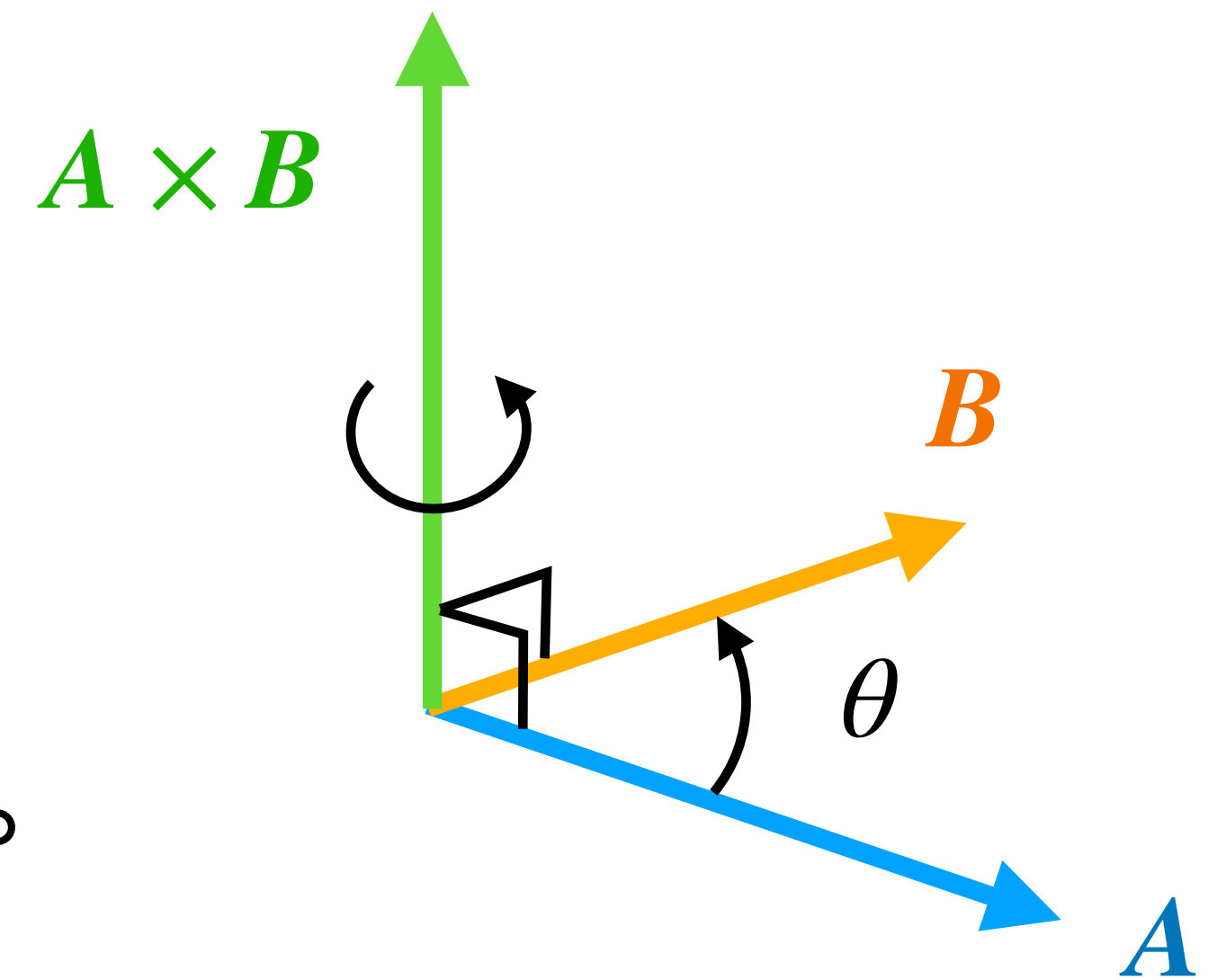
# 一般のベクトルの外積の向き

一般のベクトル  $A$ ,  $B$  の外積  $A \times B$  の向きについても同様である。

任意のベクトル  $A$ ,  $B$  は基本ベクトル  $i, j, k$  の1次結合で表されるから、外積  $A \times B$  も  $i \times j = k$  などの基本ベクトルの外積を基準にした1次結合として与えられる。

したがって、 $A \times B$  の向きは

$A$  を  $B$  へ重ねるように、小さい方の角だけ回転したとき  $A$  と  $B$  の両方に垂直で、かつ、右ねじの進む向きを向く。



一般のベクトルの外積の向きも、右手系に従う。

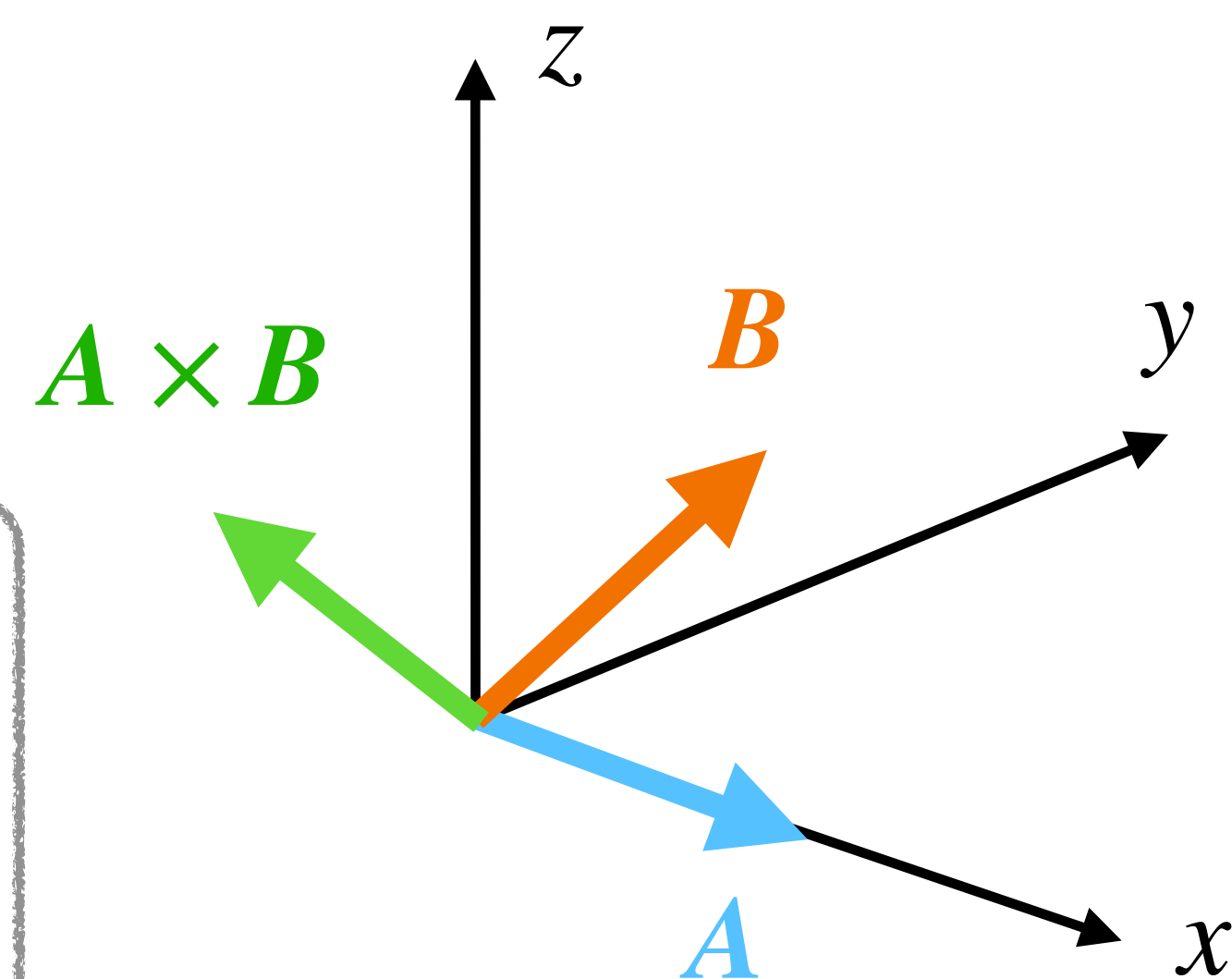
# 例題

$A = i, B = i + j + k$  として外積  $A \times B$  を求めよ。

( 解 ) 外積の成分表示から計算してみよう。

$$\begin{aligned} A \times B &= \left( A_y B_z - A_z B_y \right) i - \left( A_x B_z - A_z B_x \right) j + \left( A_x B_y - A_y B_x \right) k \\ &= (0 \cdot 1 - 0 \cdot 1) i - (1 \cdot 1 - 0 \cdot 1) j + (1 \cdot 1 - 0 \cdot 1) k \\ &= -j + k \end{aligned}$$

$A$  と  $B$  の外積  $A \times B$  が、 $A$  と  $B$  に垂直で  
右手系に従う向きのベクトルであることが確かめられる。



# 平行なベクトルの外積

ベクトル  $A$  と  $B$  が平行なとき、

$A = A_x i + A_y j + A_z k$  とすると、ある定数  $a$  があって

$B = aA$  と表せるため

$$A \times B = A \times (aA) = aA \times A = \mathbf{0}$$

となる。

(7ページの外積の性質 (4) (2) を使った。)

平行なベクトルどうしの外積は  $\mathbf{0}$

また、 $A = \mathbf{0}$  , あるいは  $B = \mathbf{0}$  のときも  $A \times B = \mathbf{0}$  となる。(たしかめよ)

# 外積の大きさ

$\mathbf{A} = A_x \mathbf{i} + A_y \mathbf{j} + A_z \mathbf{k}$ ,  $\mathbf{B} = B_x \mathbf{i} + B_y \mathbf{j} + B_z \mathbf{k}$  とするとつぎが導かれる。

$\mathbf{A} \neq \mathbf{0}$ ,  $\mathbf{B} \neq \mathbf{0}$  とし、 $\mathbf{A}$  と  $\mathbf{B}$  のなす角を  $\theta$  ( $0 \leq \theta \leq \pi$ ) とする。

$$|\mathbf{A} \times \mathbf{B}| = \sqrt{\left(A_y B_z - A_z B_y\right)^2 + \left(A_x B_z - A_z B_x\right)^2 + \left(A_x B_y - A_y B_x\right)^2}$$

$$= \sqrt{\left(A_x^2 + A_y^2 + A_z^2\right)\left(B_x^2 + B_y^2 + B_z^2\right) - \left(A_x B_x + A_y B_y + A_z B_z\right)^2}$$

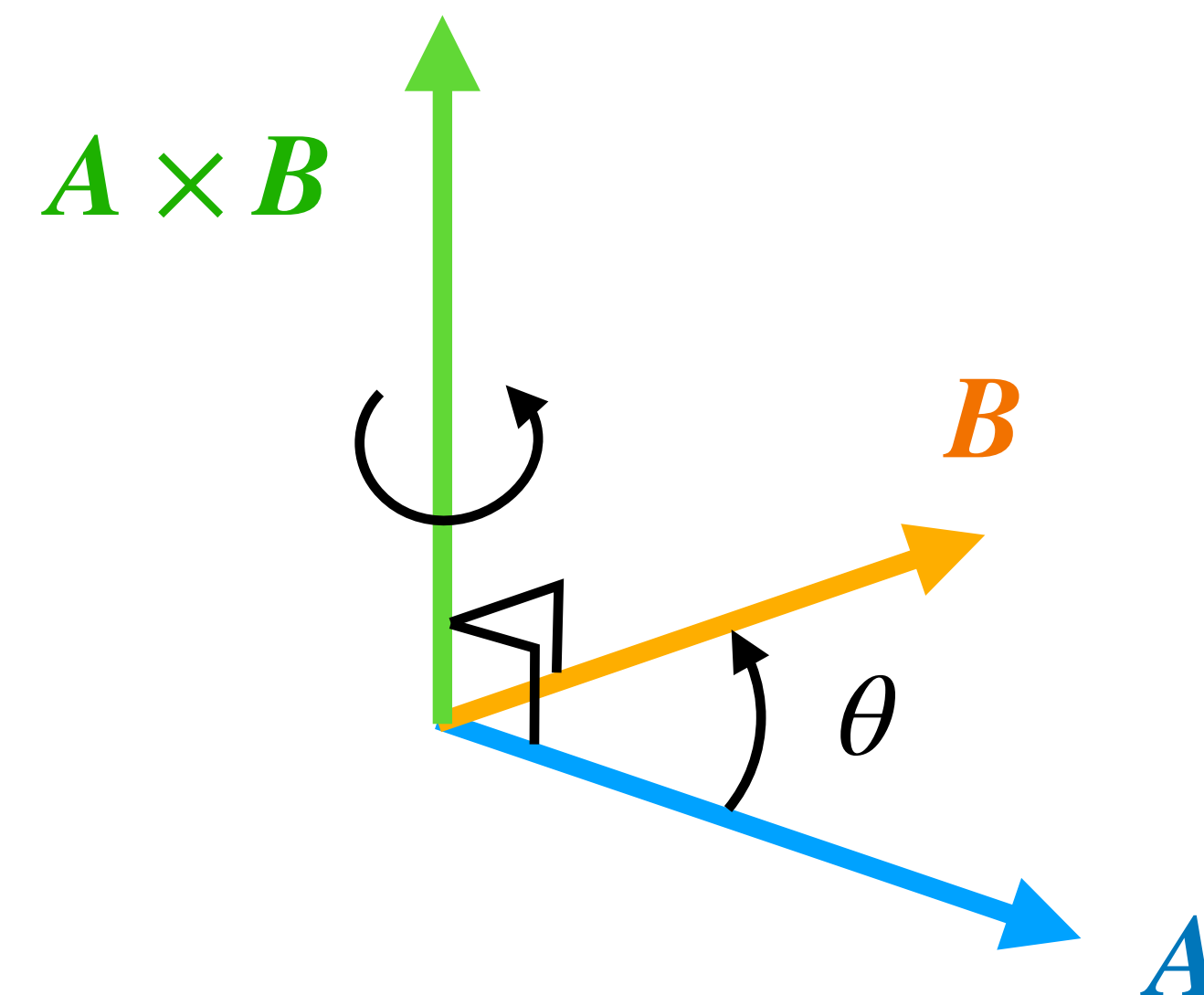
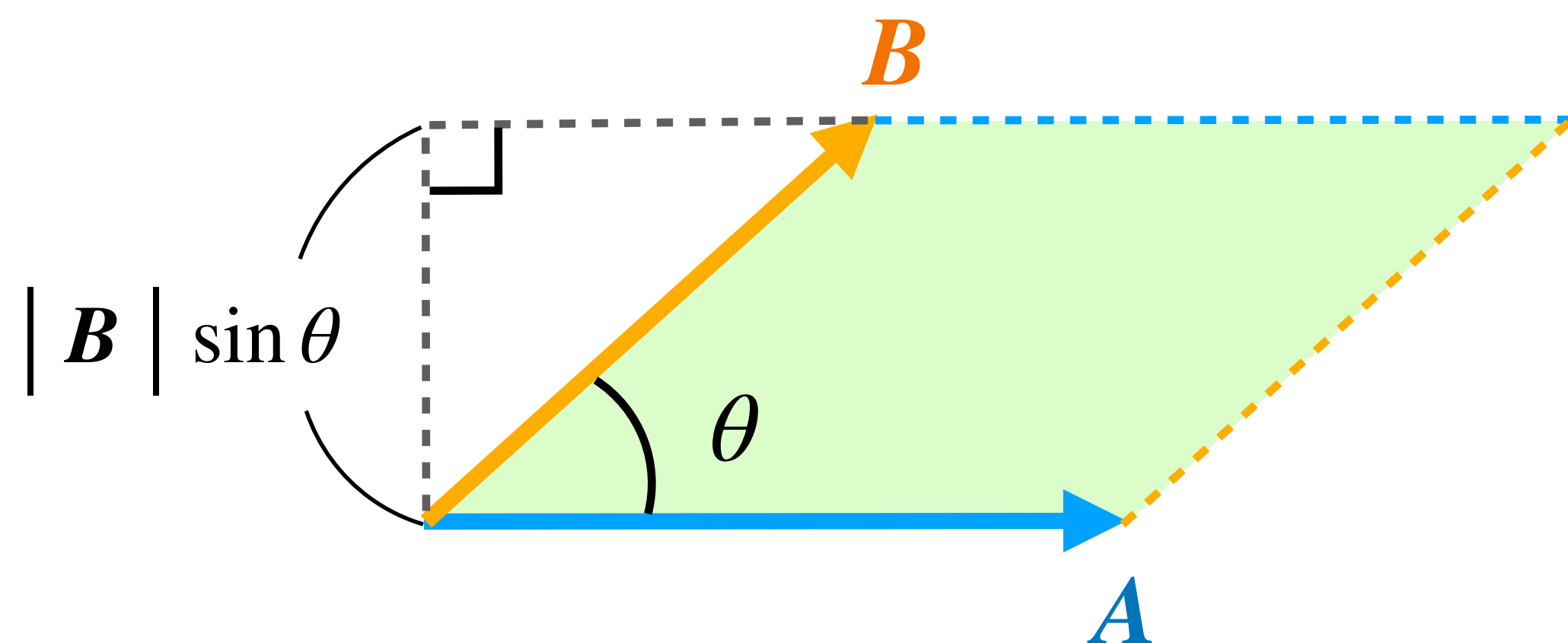
$$= \sqrt{|\mathbf{A}|^2 |\mathbf{B}|^2 - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{B})^2}$$

$$= \sqrt{|\mathbf{A}|^2 |\mathbf{B}|^2 (1 - \cos^2 \theta)} = \sqrt{|\mathbf{A}|^2 |\mathbf{B}|^2 \sin^2 \theta} = |\mathbf{A}| |\mathbf{B}| \sin \theta$$

# 平行四辺形の面積

$$|A \times B| = |A| |B| \sin \theta \quad (0 < \theta < \pi)$$

これは、 $A$  と  $B$  が張る平行四辺形の面積に等しい。



$A$  と  $B$  の外積  $A \times B$  は、 $A$  と  $B$  に垂直で右手系に従う向きのベクトルであり、その大きさは  $A$  と  $B$  で張られる平行四辺形の面積に等しい。

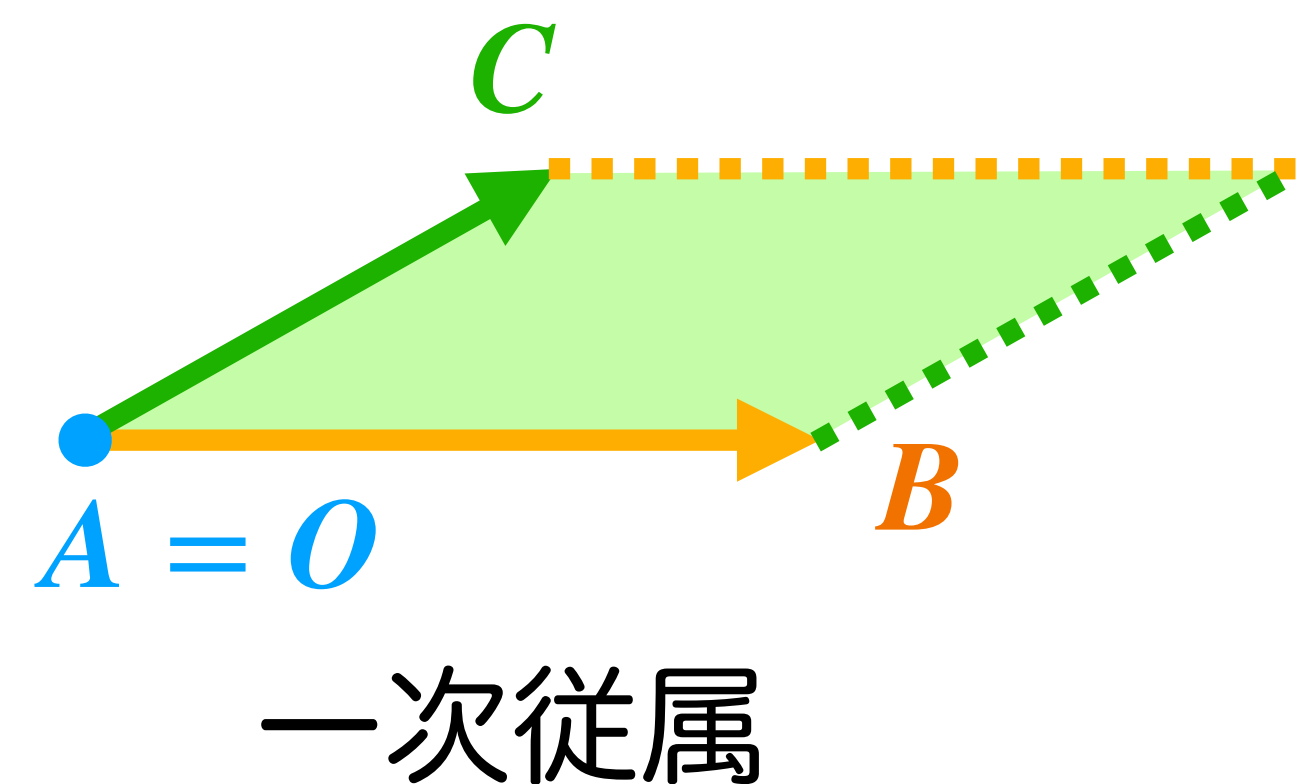
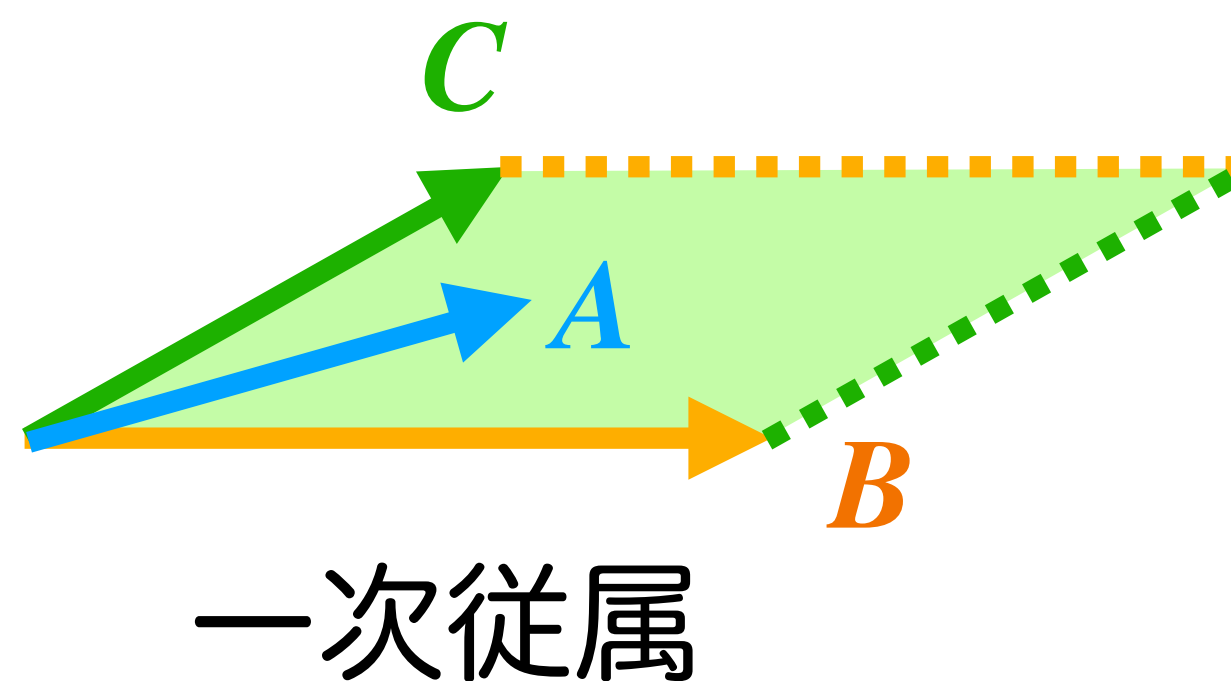
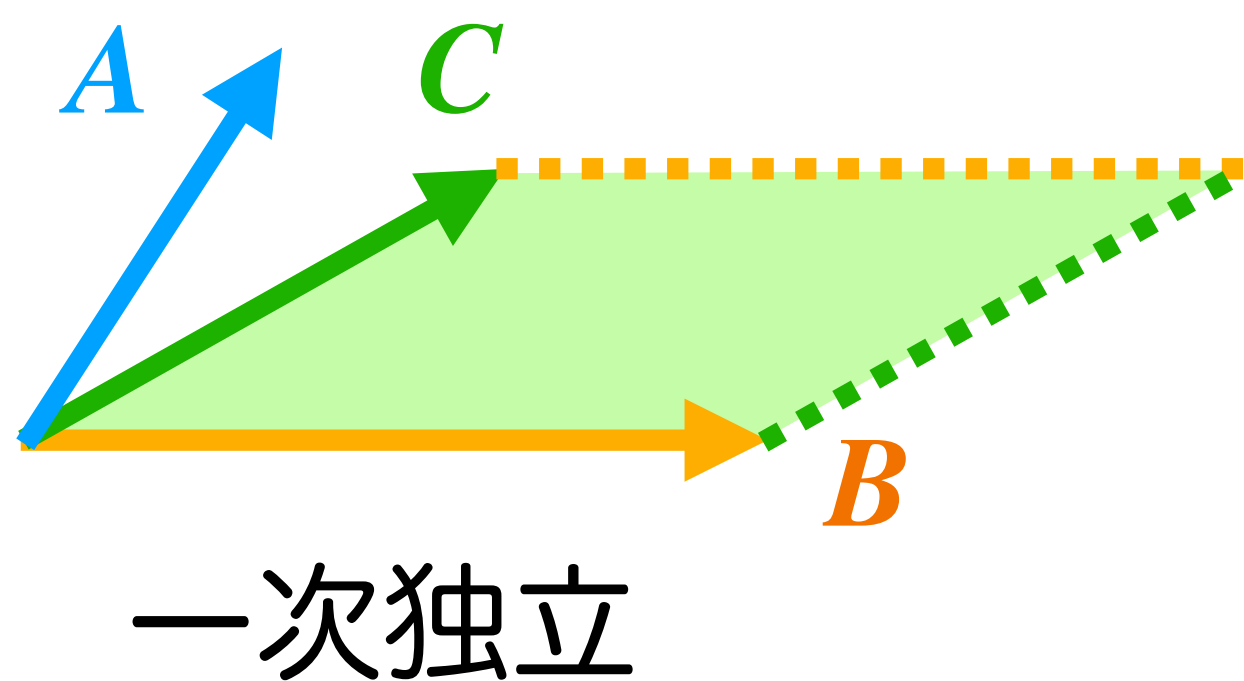
# スカラー三重積

ベクトル  $A, B, C$  に対し、 $A \cdot (B \times C)$  を **スカラー三重積** という。

スカラー三重積は実数値であることに注意。

3つのベクトル  $A, B, C$  を同一の始点から描いたとき、  
ひとつの平面上に乗らないとき、 $A, B, C$  は **一次独立** であるという。

$A, B, C$  が一次独立でないとき、**一次従属** であるという。



(線形代数学で学んだ一次独立の定義と同値である。証明は省略する。)

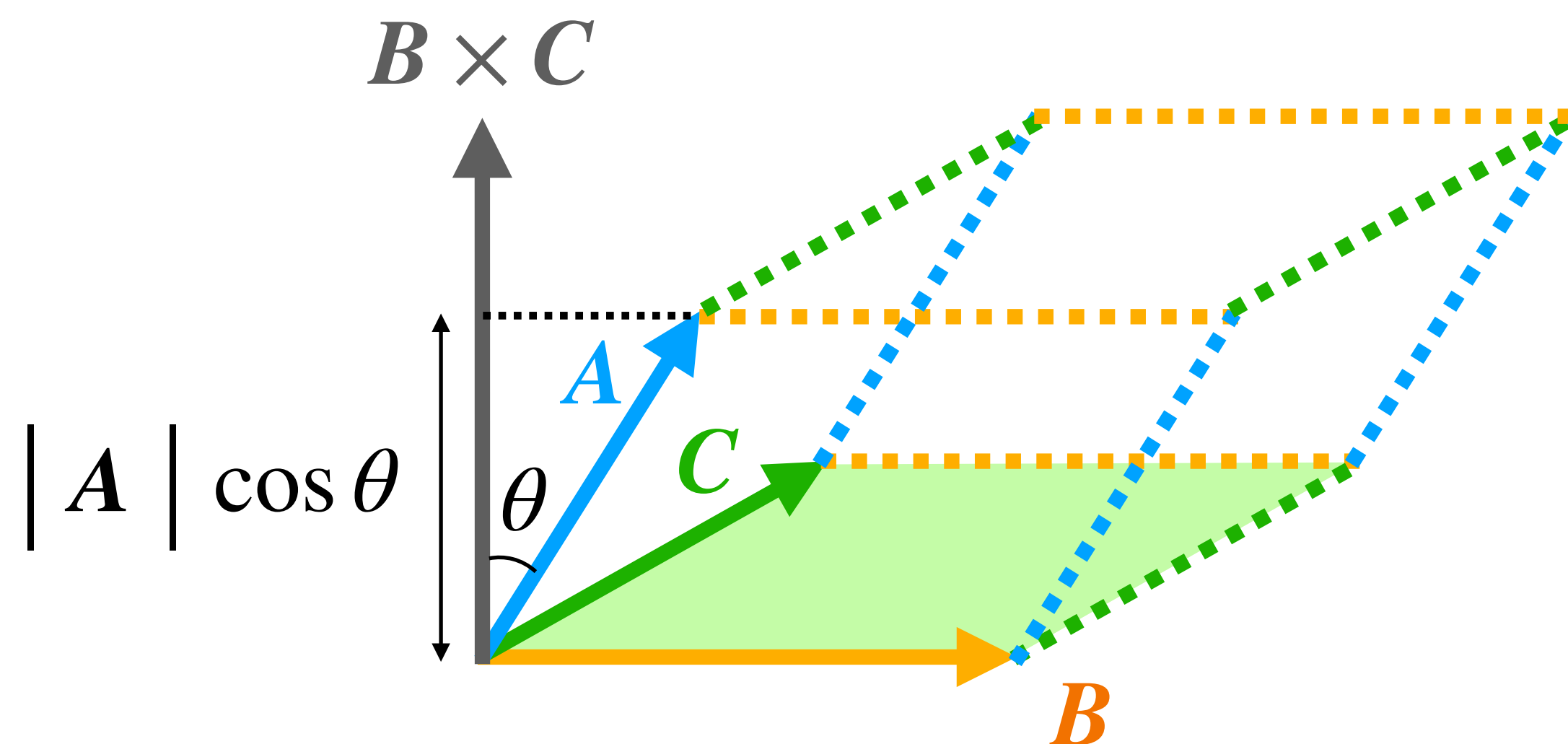
# 平行六面体の体積

ベクトル  $A, B, C$  が一次独立であるとする。

$|B \times C|$  は、 $B$  と  $C$  で張られる平行四辺形の面積に等しいのであった。

これより、 $|A \cdot (B \times C)| = |A| |B \times C| |\cos \theta|$  の値は

$A, B, C$  を3辺とする平行六面体の体積に等しい ( $\theta$  は下図の角)。



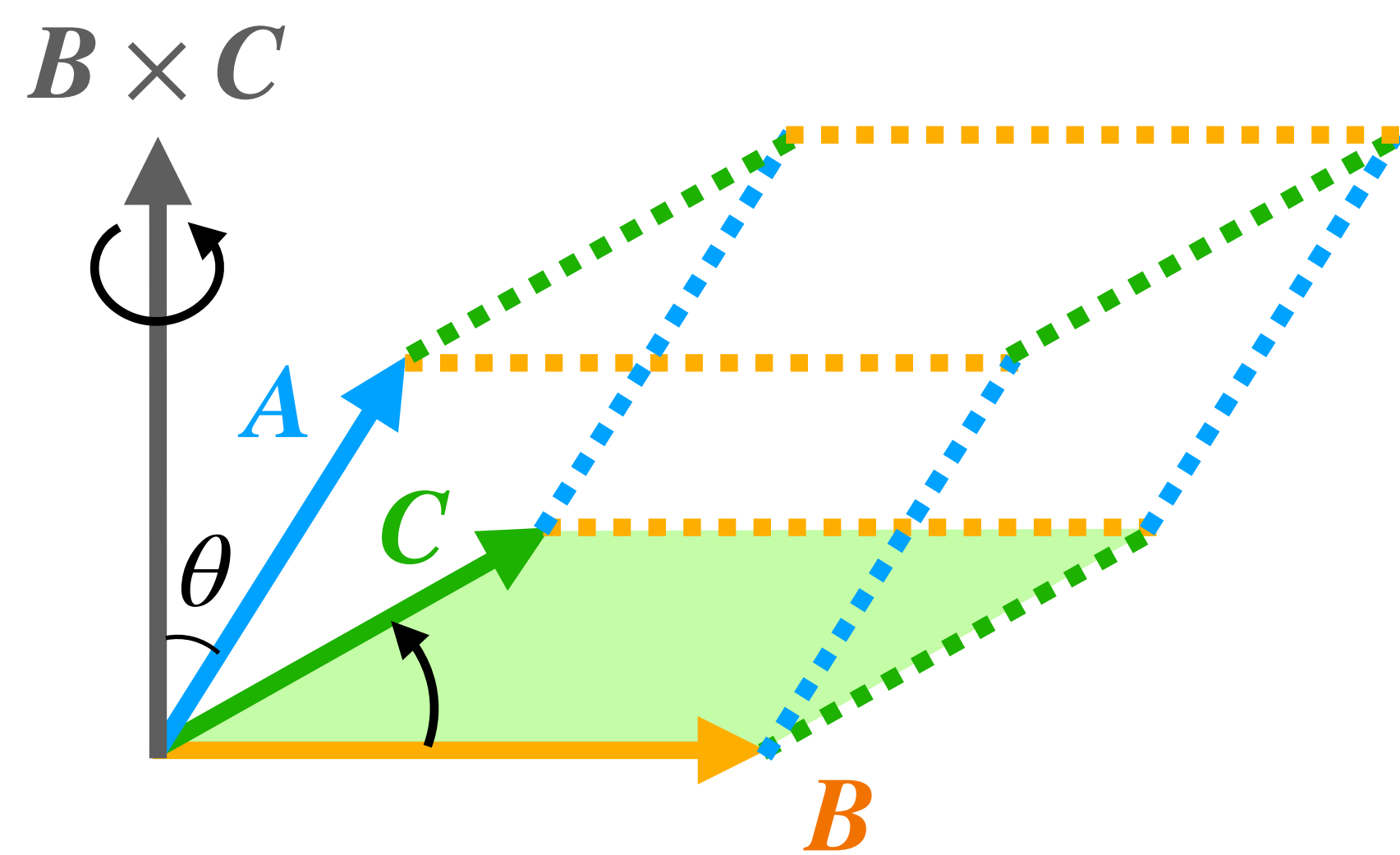
# スカラー三重積の符号

$\theta$  は図のとおり  $A$  と  $B \times C$  のなす角とする。

$0 \leq \theta < \frac{\pi}{2}$  のとき、スカラー三重積

$A \cdot (B \times C)$  は平行六面体の体積に等しい。

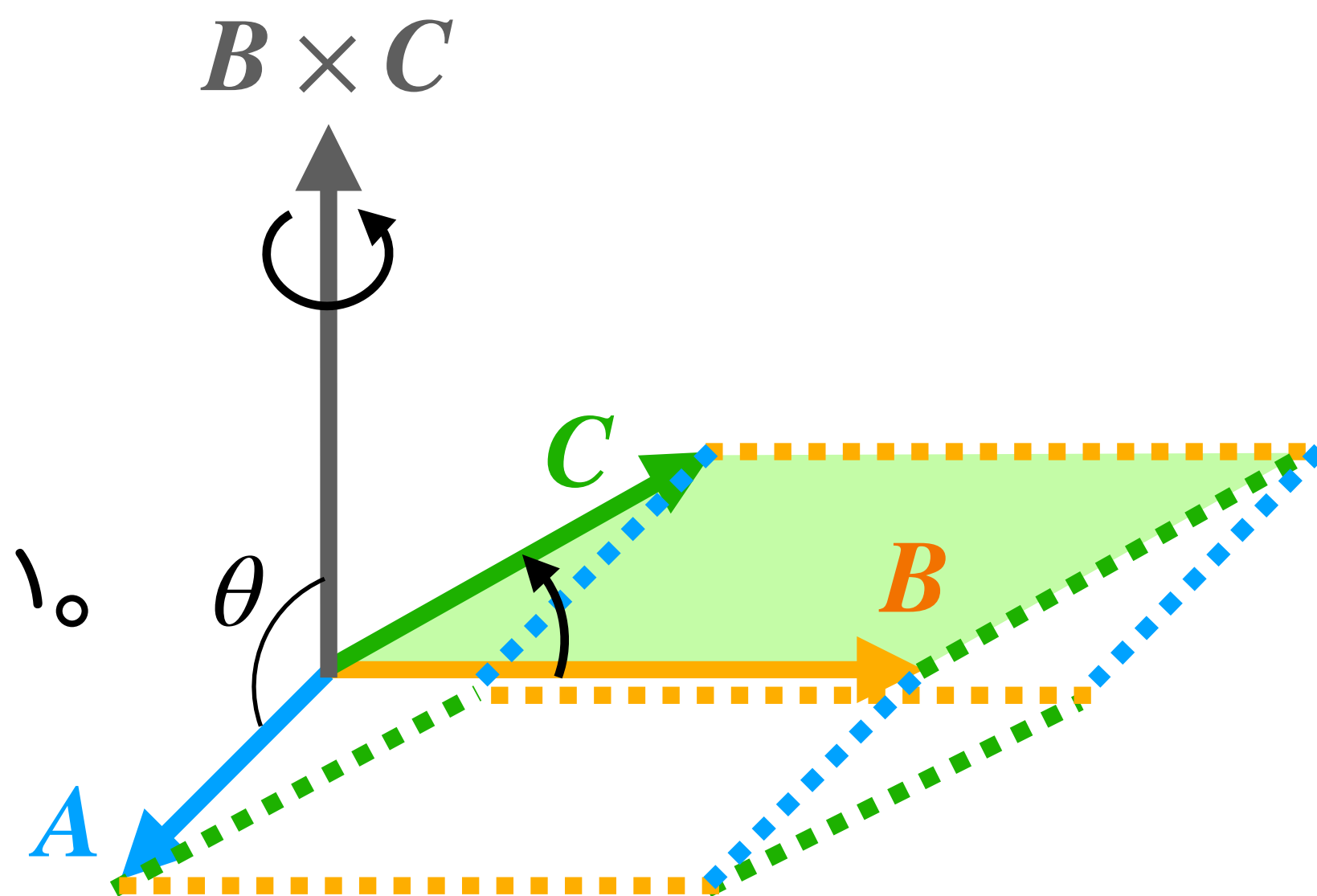
このとき  $(A, B, C)$  は **右手系** である。



$\frac{\pi}{2} < \theta \leq \pi$  のとき、スカラー三重積

$A \cdot (B \times C)$  は平行六面体の体積の  $-1$  倍に等しい。

このとき  $(A, B, C)$  は **左手系** である。



# 右手系・左手系の判定

まとめるとつぎのようになる：

$A, B, C$  が一次独立のとき、

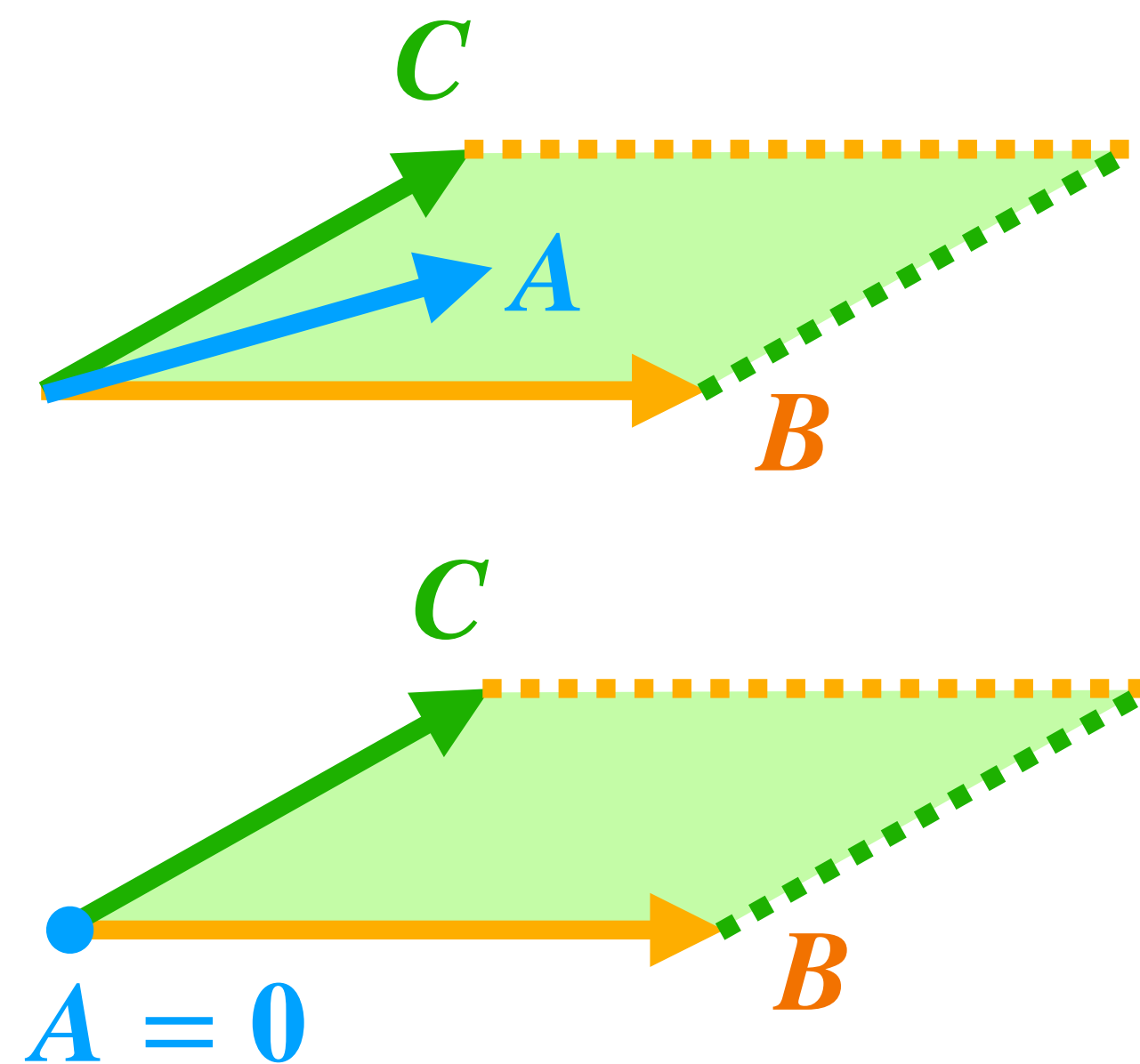
$$(A, B, C) \text{ が右手系} \Leftrightarrow A \cdot (B \times C) > 0$$

$$(A, B, C) \text{ が左手系} \Leftrightarrow A \cdot (B \times C) < 0$$

さらにつぎが成り立つ：

$$A, B, C \text{ が一次従属} \Leftrightarrow A \cdot (B \times C) = 0$$

(いずれかのベクトルが  $\mathbf{0}$  である場合も含む)



# スカラー三重積の成分による表示

$$\mathbf{A} = A_x \mathbf{i} + A_y \mathbf{j} + A_z \mathbf{k}, \mathbf{B} = B_x \mathbf{i} + B_y \mathbf{j} + B_z \mathbf{k}, \mathbf{C} = C_x \mathbf{i} + C_y \mathbf{j} + C_z \mathbf{k}$$

とすると

$$\mathbf{A} \cdot (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) = (A_x \mathbf{i} + A_y \mathbf{j} + A_z \mathbf{k}) \cdot \left\{ \begin{vmatrix} B_y & B_z \\ C_y & C_z \end{vmatrix} \mathbf{i} - \begin{vmatrix} B_x & B_z \\ C_x & C_z \end{vmatrix} \mathbf{j} + \begin{vmatrix} B_x & B_y \\ C_x & C_y \end{vmatrix} \mathbf{k} \right\}$$

$$= A_x \begin{vmatrix} B_y & B_z \\ C_y & C_z \end{vmatrix} - A_y \begin{vmatrix} B_x & B_z \\ C_x & C_z \end{vmatrix} + A_z \begin{vmatrix} B_x & B_y \\ C_x & C_y \end{vmatrix}$$

$$= \begin{vmatrix} A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \\ C_x & C_y & C_z \end{vmatrix} \quad (\text{行列式の第1行に関する余因子展開})$$

# スカラー三重積の性質

スカラー三重積が行列式で表せることから、つぎの等式が従う。

$$\begin{aligned} \mathbf{A} \cdot (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) &= \mathbf{B} \cdot (\mathbf{C} \times \mathbf{A}) = \mathbf{C} \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \\ &= -\mathbf{A} \cdot (\mathbf{C} \times \mathbf{B}) = -\mathbf{B} \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{C}) = -\mathbf{C} \cdot (\mathbf{B} \times \mathbf{A}) \end{aligned}$$

行の入れかえによる行列式の性質を使う。

$$\begin{vmatrix} A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \\ C_x & C_y & C_z \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} B_x & B_y & B_z \\ C_x & C_y & C_z \\ A_x & A_y & A_z \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} C_x & C_y & C_z \\ A_x & A_y & A_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} A_x & A_y & A_z \\ C_x & C_y & C_z \\ B_x & B_y & B_z \end{vmatrix} = \dots$$

# ベクトル三重積

ベクトル  $A$ ,  $B$ ,  $C$  に対し、 $A \times (B \times C)$  を **ベクトル三重積** という。

つぎの等式が成り立つ。

$$A \times (B \times C) = (A \cdot C) B - (A \cdot B) C$$

実際、 $A$ ,  $B$ ,  $C$  の成分を使うと、左辺の  $B \times C$  については

$$B \times C = (B_y C_z - B_z C_y) i - (B_x C_z - B_z C_x) j + (B_x C_y - B_y C_x) k$$

となる。したがって  $A \times (B \times C)$  の  $x$  成分はつぎのようになる。

# ベクトル三重積の性質 (1)

$$\begin{aligned}
 (\mathbf{A} \times (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) \text{ の } x \text{ 成分}) &= A_y (B_x C_y - B_y C_x) - A_z \left\{ - (B_x C_z - B_z C_x) \right\} \\
 &= (A_y C_y + A_z C_z) B_x - (A_y B_y + A_z B_z) C_x \\
 &= (\underline{A_x C_x} + A_y C_y + A_z C_z) B_x - (\underline{A_x B_x} + A_y B_y + A_z B_z) C_x \\
 &= (\text{右辺 } (\mathbf{A} \cdot \mathbf{C}) \mathbf{B} - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{B}) \mathbf{C} \text{ の } x \text{ 成分})
 \end{aligned}$$

となる。

$y$  成分、 $z$  成分についても同様に確かめられ、等式が示される。(たしかめよ)

一般には  $(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \times \mathbf{C} \neq \mathbf{A} \times (\mathbf{B} \times \mathbf{C})$  であることに注意!

## ベクトル三重積の性質 (2)

ベクトル三重積について、さらにつぎの等式が成り立つ。

$$\mathbf{A} \times (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) + \mathbf{B} \times (\mathbf{C} \times \mathbf{A}) + \mathbf{C} \times (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = \mathbf{0}$$

(証明)

$$\begin{aligned} (\text{左辺}) &= (\mathbf{A} \cdot \mathbf{C}) \mathbf{B} - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{B}) \mathbf{C} + (\mathbf{B} \cdot \mathbf{A}) \mathbf{C} - (\mathbf{B} \cdot \mathbf{C}) \mathbf{A} \\ &\quad + (\mathbf{C} \cdot \mathbf{B}) \mathbf{A} - (\mathbf{C} \cdot \mathbf{A}) \mathbf{B} \\ &= (\text{右辺}) \end{aligned}$$

内積の性質より  $\mathbf{A} \cdot \mathbf{B} = \mathbf{B} \cdot \mathbf{A}$  であることを使った。■